

## 小学生の自分

実家のすぐ裏は六甲山の登山口です。子供の頃の主な遊び場は山の中、ダム、川や沢でした。山の中に基地を作り、家にあった食器やゴミステーションにあった粗大ゴミを持ち込み基地で過ごす時間を楽しんだものです。今は基地ってあるのでしょうかね…。

基地からけもの道を通ると柿木、ムカゴ、グミの木、アケビ…山の中に食材がいっぱいありました。その道を抜け、登山道を下りるとダムがあります。六甲の天然水も湧き出るそんな場所です。網を持って小魚をすくったり、イモリ採りに夢中になったり、ダムで優雅に泳ぐコイを釣ろうと必死になったこともありました。

小学生の頃の私は一年中羊で羊ズボンで、大人しい優等生とは正反対の小学生でした。

このような外遊びをして、家では、ラジコン、ファミコン…時々勉強そんな感じてしたね。

塾には行っていただけ、親の期待通りの成績には至らず、中学受験もしましたが全滅…今思えば受験前から結果はほぼ100%こうなることは予想できましたね。

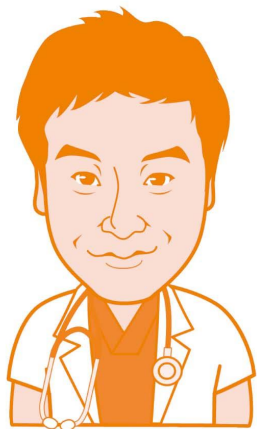
受験の失敗は子供心に親に申し訳ないという思いがあったけれど、塾に行ったり、勉強した記憶よりこれらの遊びの記憶が鮮明に残っていて今の自分の根幹の一部になっていると思っています。

そうそう、もう一つ大切な思い出があります。小学3年生の頃の男の担任の先生は、とても変わっていて習字以外はほとんど授業をせず、海やクレーザーの話ばかりしていました。ある日の授業参観では、最初から最後までクレーザーの話。さすがに数人の親御さんからクレームがあったと母から聞かされました。「俺の授業やねんから好きにやらせる。嫌なら学校に来なくていい!」と言っ

たく、今の世の中では問題発言としてニュースになるレベルかも知れませんがね。

当時の私（今も中身はこの頃とほとんど同じですが）は、この先生がとても好きで、休みの日は西明石にある先生の別荘に行ったり、夏には日本海の竹野でキャンプに連れて行ってもらったり…学校外でもとてもお世話になった先生です。ここまで自分に影響を与えた先生は先にも後にも彼以外一人も現れませんでした。

「勉強なんてやりたければ自分でやれ」「どうせやらないといけないうちが来るから、その時にやればいいし、言われてやる勉強なんて意味ない」「それ以前に字は丁寧に書け」



とよく言われ、その傍は、

「小野、泊りに来るか?」「海行くぞ、ついて来るか?」でした。

多くの親が先生を敬遠していた中、私の両親は内田先生が好きだったようで、泊りにもキャンプにもどろんどろん参加させてくれましたね。今思うとおの頃の体験は自分にとってかけがえのないモノになったなと思っています。

医者というと、どうも子供の頃から英才教育を受けていて、インドアで大人しい、色白で線が細く大学から色々なことに目覚める…そんなイメージが一般的に強い気がします。まあ実際のところ、そのような人生を歩んでこられたドクターは大勢いらっしゃると思いますし、もしかしらそれが本来の医者のあるべき姿なのかもしれません。

でも、私は昔から天邪鬼な性格で、全くその様な道を歩んで来ませんでした。よくよく言われた反抗の事をしたり、反抗の道を歩みました。詳しくはホームページをご覧くださいと思いますが、幼少期の体験が根強く残ったまま、今に至っている気がします。子供のまま大人になったという表現が正しいのかも…。

現代の子供達の考え方や育ち方、価値観とは自分が経験した体験した事とは違うものだと思いますが、大人の世界より子供が作り出す発想・世界に、今も魅力を感じています。自分がまだまだ子供だって事なのかな?

まあ、そんな医者が造り出した「おの小児科」です。

スタート地点に立っただけですので、これからもっと子供にとってためになる、面白い、楽しい、そんな世界をクリニック全てにもり込んで行きたいと本気で思っています。

まずは、その誕生を体感してみてください。

クリニックでお会いしましょう!お待ちしております!

平成27年秋 小野 英一